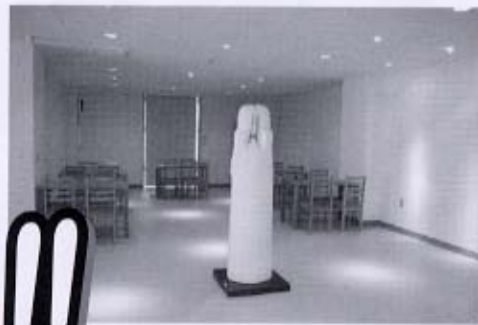


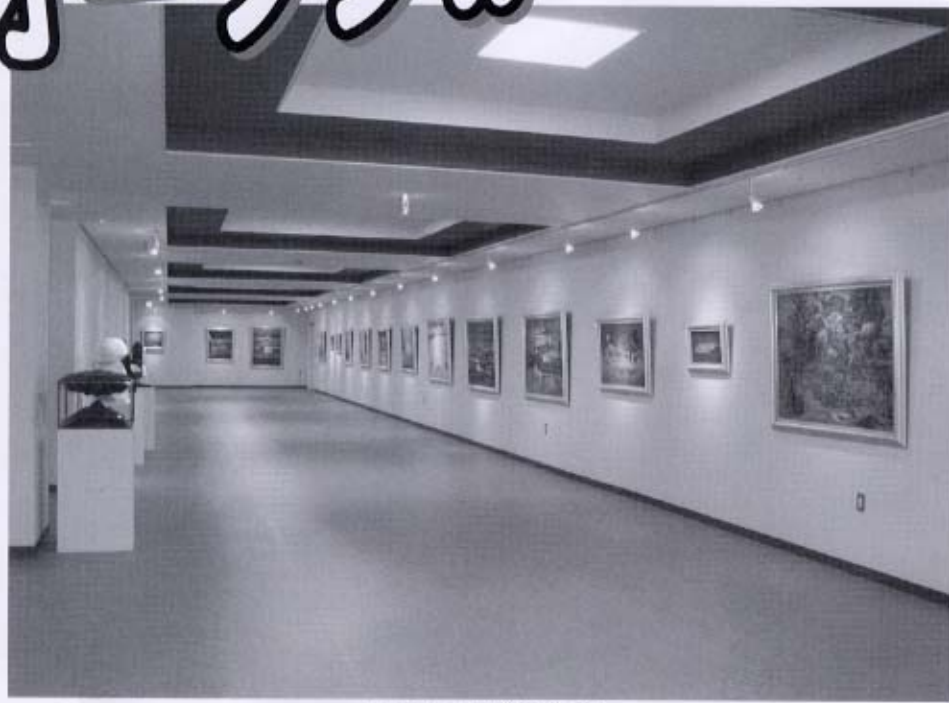
美術館 オープン!!



▲ロビー(1階)



▲まちなか美術館外観



▲ひろさと美術館(1階)

郷土の芸術・文化を発信

地域の歴史、自然などの資料を守り続けてきた博物館の分館として、「まちなか美術館」が5月1日(木)10時にオープンします。
郷土が輩出した偉大な芸術家を紹介するとともに、まちなか活性化の拠点として地域の芸術・文化を広く皆さんにご案内します。
皆さんのご来場をお待ちしています。



平成17年12月、建物・土地を市が取得。市民の意見を参考にしながら検討を進め、生涯学習やまちなか交流の場として活用することになり、平成19年7月から改修が行われ、5月1日博物館の分館として「まちなか美術館」をオープン。
今まで博物館の中で美術工芸資料を常設展示することは難しいことでしたが、「まちなか美術館」の開館により、村瀬真治、齊藤顯治の作品を中心に郷土紋別が生み出した芸術・文化を全国に発信することができるようになりました。
また、329m²の多目的ホールは、展覧会や各種イベントの開催が大いに期待されます。

旧NTTラインマンセンターがまちなか美術館にリニューアル

悠久の流水画家

村瀬真治

明治39年横浜に生まれる。昭和2年から帝展(現日展)に連続入選を果たすなど精力的に創作を続け、昭和24年紋別高等学校美術教師として紋別に転居。このとき流水と出会い神秘的な印象を強く受ける。昭和39年から本格的に流水をモチーフとして制作し、道展などで発表。以後、全国で多くの個展を開催した。
晩年、脳いっ血で倒れ、利き腕に麻痺が残るが、創作意欲は衰えることなく、ペインティングナイフと左手の指先を絵筆代わりに小品を制作し続けた。

オホーツクの自然、特に「流水」を写実ではなく、常にその厳しさに対話する中で、光を空気として捕える独特の空間表現を確立した。



まちなか



▲多目的ホール(地階)



▲まちなか交流室(1階)

日本彫刻界の巨星

齊藤顯治

昭和8年紋別市に生まれる。父は、看板業(三書堂看板店)で長男だったこともあり、デザインの勉強をするために芸大を目指した。東京芸術大学彫刻科を卒業後、二科展に出品し特選を受賞。

横浜を中心に全国各地で個展を開き、平成元年、二科展において文部大臣賞受賞。二科会彫刻部会会員・理事を務めたほか共立女子大学教授、名誉教授を歴任。

市内では、スポーツセンター、紋別中学校、文化会館などで、作品を観ることができ、地元の芸術振興にも積極的に寄与した。

生まれ育った郷土紋別を現風景として、多くの作品を残し、日本彫刻界の第一人者として活躍した。



ご利用ください みんなの「まちなか芸術館」

博物館駐車場側の正面玄関をくぐると、1階が齊藤顯治の彫刻作品を見ながらくつろげるロビー。郷土の作家を紹介する「ふるさと芸術館」には、村瀬真治の絵画と齊藤顯治の彫刻作品が多数展示されています。また、市民が利用できる会議室「まちなか交流室(定員30名)」を設けました。階段を下りて地階は、フリーマーケットやミニライブ、野菜市などさまざまな催しを開催できる「多目的ホール」、博物館が収蔵する大型資料などを保管する「収蔵室」からなります。

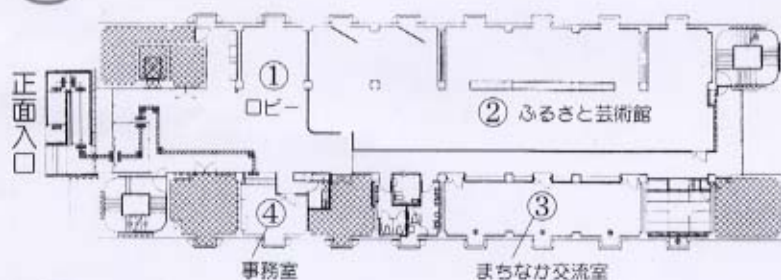
開館時間は、博物館と同じ、9時30分から17時まで。月曜日、国民の祝日の翌日(土日を除く)及び年末年始が休館日です。

「多目的ホール」や「まちなか交流室」の利用時間は9時から22時までとなっています。「ふるさと芸術館」の観覧料は無料です。「多目的ホール」と「まちなか交流室」は施設使用料がかかりますが、減免の規定を設けています。料金等は問い合わせください。

《紋別市立博物館まちなか芸術館の概要》

- 建物所在地 紋別市幸町3丁目36番1号
(文化会館横旧NTRライオンセンター)
敷地面積 1千489・16㎡
建物構造 鉄筋コンクリート造 2階建
延床面積 2千115・67㎡
主な各室
- ①ロビー 212㎡
 - ②ふるさと芸術館 375㎡
 - ③まちなか交流室 85㎡
 - ④事務室 24㎡
 - ⑤収蔵室 295㎡
 - ⑥多目的ホール 329㎡
- 図博物館 ☎(23)4236番

1階



地階

